目黒区の蜘蛛

まえがき

日本の文化を語るうえで、「クモ」は欠かすことのできない存在です。日本最古の歴史書である古事記に始まり、浮世絵、怪談話、小説、漫画、映画におよぶ幅広いジャンルに登場します。ことわざや慣用句にもクモ（蜘蛛）が使われるほど馴染みのあるいきものと言えます。

なぜこれほどまでにクモは日本の文化に根付いているのでしょうか。それは日本の地理的環境と気候、そして農耕の歴史が深く関係します。人々はもともとあった自然の山々をうまく活用し、田んぼや雑木林、草地や住居を整備してきました。このように人が自然やいきものと共生関係を築きながら作り上げた「里地・里山」にはそれぞれの場所で違った種類のクモが住むようになり、私たち人間の生活にとても身近ないきものとなりました。これほどまでに身近なクモですが、今では関心が薄れ、現在の私たちの生活とは距離ができつつあるのではないでしょうか。

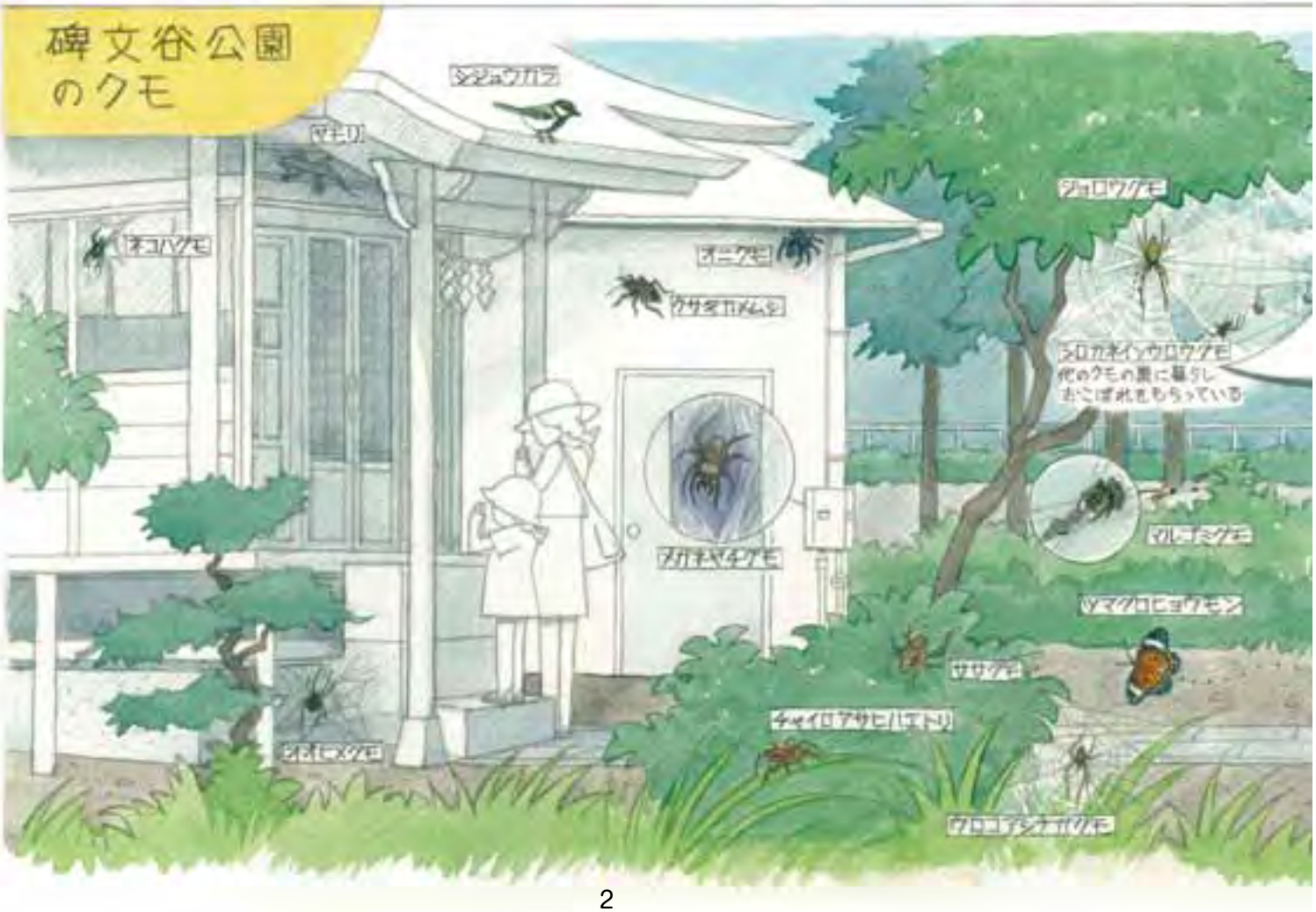
「目黒区いきもの住民台帳　目黒区の蜘蛛」は、皆さまにクモの魅力を深く知ってもらい、クモが住める地域の環境を見つめ直すきっかけとなるものとして、ご覧になっていただけると幸いです。

目　次

●駒場野公園・碑文谷公園のクモ ・・・・・・・2
●クモのからだのつくり・クモの糸 ・・・・・4
●クモは空を飛んで来る ・・・・・・・・・・・5
●駒場野公園のクモの観察でみえてきたこと ・・・8
●クモの毒 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
●クモ検索表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
●目黒区のクモ（リスト）　・・・・・・・・・・10
●身近なところにクモはいるかも！？ ・・・・・20
●参考資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

写真　左：ハナグモ（2004年6月12日：大岡山2丁目）　右上：ワカバグモ（2004年5月12日：林試の森公園）
右下：ウズグモ類（2004年6月22日：駒場公園）

駒場野公園
のクモ
樹皮の下には
キハダカニグモ
エノキ
アカマツ
クヌギ
ニッポンオオヤマカニグモ
シムカデ
エモノを待つ
キシノウエトタテグモ
ニホンカナヘビ
シオカラトンボ

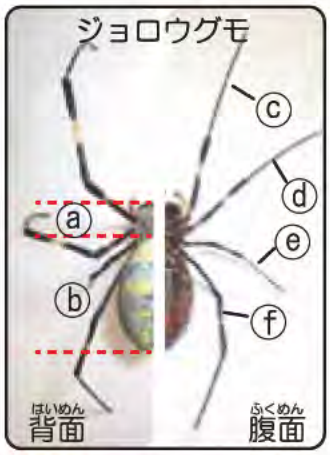

碑文谷公園
のクモ
シジュウカラ
マキリ
ネコハグモ
オニグモ
クサグモ
ムカデ
スロカネイソウロウグモ
他のクモの巣に暮らし
おこぼれをもらっている
アカネマダラグモ
ツマグロヒョウモン
ヤサグモ
ナミアゲハ
ハエトリ

身近な生物多様性 ― クモ ―

わたしたちの身近な場所に暮らしているクモ。実は自然界では他のいきものを「食べる」、他のいきものに「食べられる」の両方の側面を持ち、複雑に絡み合う生態系の中で重要な役割を担っています。クモは、都会でのくらしの中で“生物多様性”を感じさせてくれる最も身近ないきものです。

クモのからだのつくり

ⓐ頭胸部
ⓑ腹部
ⓒ第１脚
ⓓ第２脚
ⓔ第３脚
ⓕ第４脚



眼は８つある種が多い

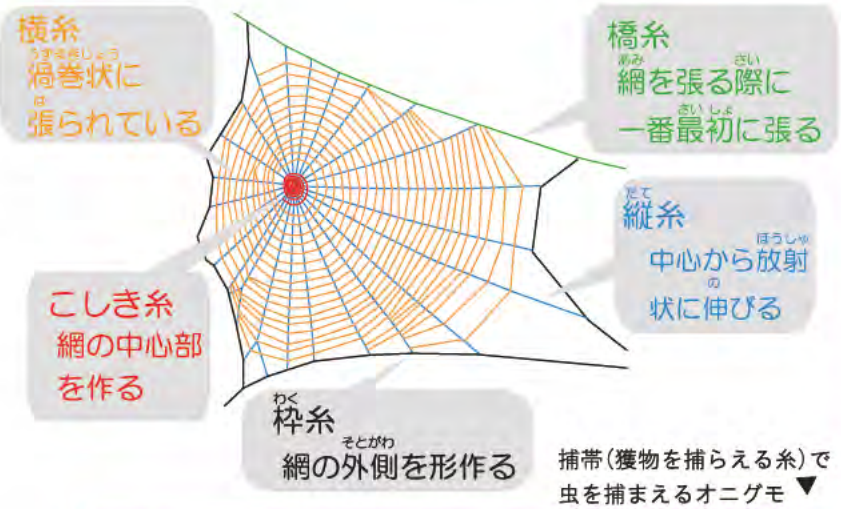
ⓖ触肢　ⓙ出糸突起（糸疣）
ⓗ上顎　ⓚ牙
ⓘ外雌器　ⓛ単眼

クモの糸

いろいろな糸

網状に張った「クモの巣」は、昆虫などを捕らえるための罠として利用されます。ではなぜ、クモは自分の網に引っかからずに網の上を歩き回れるのでしょうか？

クモが張る代表的な形の円網には、中心から放射状に伸びる「縦糸」、渦巻き状に張られている「横糸」、網の外側を形作る「枠糸」などがあります。クモが網上を移動するために使うのは粘着性のない縦糸、獲物を捕らえるのは粘着性のある横糸、といったように糸ごとに役割があるのです。他にもクモが歩行するときに必ず引いている「しおり糸」や、獲物を捕らえた時にぐるぐる巻きにする数十～数百本の糸からなる「捕帯」、円網の中心付近に張られているかくれ帯などがあります。



捕帯（獲物を捕らえる糸）で虫を捕まえるオニグモ ▼

かくれ帯の役割については、「身を隠すため」「網を強化するため」、「紫外線を反射して餌を誘引している」など諸説あります。
（→で示した白い太い糸がかくれ帯）

クモの糸の利用

クモの糸には、強さと柔らかさを兼ね備えている、紫外線に強い、耐熱性がある、生分解性（微生物によって分解される性質）があるなど、他の繊維に見られない優れた性質があります。クモは共食いのため大量飼育ができず、糸の量産は難しいとされていました。しかし近年は、遺伝子工学によるクモ糸の生成技術が研究され、新たな繊維素材として量産化が期待されています。近い将来、クモの糸が身近なものに使われる時代がやってくるかもしれません。